

【2020 年度私大医学部一般入試における主要変更点一覧】

(2019 年 11 月 1 日時点)

大学名	2019 年度入試からの変更点
岩手医大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域枠拡大等に伴う一般入試募集人員減 「一般 90 名」⇒「一般 76 名」 ▶ 2 次試験科目配点の変更 「面接：配点は定めない」⇒「面接 50 点」 ▶ 合否発表における補欠者情報の取り扱いについての変更 「補欠者については情報開示なし」⇒「順位をつけて個別通知または公表」
東北医科薬科大学	▶ 1 次試験に課されていた小論文が 2 次に移行された。
獨協医大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一般入試 2 次試験に課されていた小論文が 1 次に移行された。ただし、その評価は、1 次選抜時ではなく、2 次選抜時に使用される。 ▶ セ利用入試 2 次試験科目の変更 「小論文，面接」⇒「面接」
埼玉医大	▶ セ利用入試日程の一本化に伴う募集人員内訳の変更 「一般前期 52 名，一般後期 35 名，セ利用前期 10 名・セ利用後期 2 名」 ⇒「一般前期 52 名，一般後期 34 名，セ利用 10 名」
杏林大	▶ 一般入試日程の一本化、およびセ利用入試日程の二分劃化に伴う募集人員内訳の変更 「一般前期 79 名，一般後期 10 名，セ利用 10 名」 ⇒「一般 88 名，セ利用前期 10 名，セ利用後期 5 名」 セ利用前期試験科目→変更なし セ利用後期試験科目→センター受験科目は前期と同じ。2 次以小論文・面接に加えて英語記述試験（30 分）が課せられる。
慶應義塾大	▶ 研究医養成枠撤廃に伴う一般入試募集人員減 「一般 68 名」⇒「一般 66 名」
順天堂大	▶ 募集人員内訳の変更 「一般 A61 名，一般 B10 名，セ・一般併用 20 名，セ利用前期 10 名，セ利用後期 5 名」 ⇒「一般 A67 名，一般 B5 名，セ・一般併用 15 名，セ利用前期 10 名，セ利用後期 5 名」
昭和大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 学納金の増額 6 年間合計：22,000,000 円⇒27,000,000 円（5,000,000 円増） 初年度合計は 4,500,000 円のまま変更はない。 ▶ 一般 I 期募集人員減 「一般 I 期 78 名」⇒「一般 I 期 75 名」
帝京大	▶ 学納金の増額 6 年間合計：37,504,120 円⇒39,380,140 円（1,876,020 円増） 初年度合計：8,924,120 円⇒9,370,140 円（446,020 円増）
東京医大	▶ 2 次試験科目、およびその配点の変更 「適性検査，小論文，面接（いずれも配点は定めない）」⇒「小論文 60 点，面接 40 点」

(次ページに続く)

大学名	2019 年度入試からの変更点
東京慈恵会医大	▶ 「一般入試出願時の英語資格・検定試験結果の任意提出」をうたうようになった。提出された場合、その内容を 2 次試験評価の参考にするが、それによりマイナス評価を受けることはない。
東邦大	▶ 附属校推薦枠（25 名）を別立てにしたことに伴う一般入試募集人員減 「一般 115 名（附属校推薦枠および千葉県地域枠 5 名を含む）」⇒「一般 85 名」
日本大	▶ 一般 A 方式募集人員増 「一般 A 方式 92 名」⇒「一般 A 方式 97 名」
日本医大	▶ A O 入試導入に伴う一般前期募集人員減 「一般前期 90 名」⇒「一般前期 88 名」
北里大	▶ 地域枠指定校推薦入試を導入し、地域枠の大半を別立てにしたことに伴う一般入試募集人員減 「一般 84 名」⇒「一般 65 名」
聖マリアンナ医大	▶ 神奈川県地域枠指定校推薦入試導入に伴う一般入試募集人員減 「一般 85 名」⇒「一般 80 名」 ▶ 2 次試験科目配点の変更 「小論文 100 点，面接 100 点」⇒「小論文 50 点，面接 150 点」
金沢医大	▶ 一般前期 1 次試験における科目配点、および理科試験時間の変更 「英語 100 点，数学 100 点，理科 2 科目 200 点」 ⇒「英語 100 点，数学 100 点，理科 2 科目 150 点」 「理科 2 科目 120 分」⇒「理科 2 科目 90 分」 ▶ 一般前・後期可否発表における補欠者情報の取り扱いについての変更 「補欠者には順位を伏せて個別に通知する」⇒「順位をつけて個別に通知する」
藤田医大	▶ 募集人員内訳の変更 「一般前期 80 名，セ利用前期 10 名，一般後期・セ利用後期合計で 15 名」 ⇒「一般前期 80 名，一般後期 10 名，セ利用前期 10 名，セ利用後期 5 名」
大阪医大	▶ 研究医養成枠撤廃に伴う募集人員内訳の変更 「一般前期 85 名，一般後期 15 名，セ利用 5 名」 ⇒「一般前期 82 名，一般後期 15 名，セ利用 10 名」
関西医大	▶ セ利用入試日程の二分割化に伴う募集人員内訳の変更 「一般前期 86 名，一般後期 6 名，セ・一般併用 10 名，セ利用 10 名」 ⇒「一般前期 82 名，セ・一般併用 10 名，セ利用前期 10 名，一般後期・セ利用後期合計で 10 名」 セ利用前期試験科目→変更なし セ利用後期試験科目→前期と同じ

(次ページに続く)

大学名	2019 年度入試からの変更点
近畿大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域枠を別立てにすることに伴う一般前期・セ利用前期募集人員減 「一般前期 65 名，一般後期 5 名，セ利用前期 10 名，セ利用中期 3 名，セ利用後期 2 名（全方式の中に地域枠 20 名を含む） ⇒「一般前期 55 名，一般後期 5 名，セ利用前期 5 名，セ利用中期 3 名，セ利用後期 2 名（地域枠は別枠で 12 名）」
兵庫医大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一般 A 方式における 2 次試験科目配点の変更 「面接：配点は定めない」⇒「面接・調査書 100 点」 ▶ 一般 B 方式における 1 次試験および 2 次試験科目配点の変更 1 次「数学 100 点，理科 1 科目 100 点，小論文 50 点」 ⇒「数学 150 点，理科 1 科目 100 点，小論文 50 点」 2 次「英語 100 点，課題型面接・個人面接 30 点，英語資格検定試験・調査書 50 点」 ⇒「英語 150 点，課題型面接・個人面接 30 点，英語資格検定試験・調査書 50 点」 ▶ 一般 B 方式における 2 次試験科目「英語」の試験時間の変更 「英語 60 分」⇒「英語 90 分」
久留米大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域枠特別推薦枠拡大に伴う一般前期募集人員減 「一般前期 80 名，一般後期 5 名」⇒「一般前期 70 名，一般後期 5 名」 ▶ 一般前・後期における 2 次試験科目配点の変更 「小論文 50 点，面接：配点は定めない」⇒「小論文 50 点，面接 50 点」
福岡大	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 推薦枠拡大に伴う一般入試募集人員減 「一般 70 名，セ利用 10 名」⇒「一般 60 名，セ利用 10 名」 ▶ 主要 4 科目以外の配点の変更 「小論文・面接・調査書で 50 点（面接は 2 次で実施）」 ⇒「面接 50 点，小論文・調査書は面接の参考資料として活用する（面接は 2 次で実施）」

<注釈>

- ◆大学によって、募集人員の表記に「約～名」、「～名程度」といった表現を用いているケースがあるが、それらの「約」「程度」といった言葉は省略した。
- ◆募集人員の中に地域枠の分が含まれているケースがあるが、それに関する注釈は省いた。
- ◆試験会場・入試日程についての変更は省いた。
- ◆自治医大と産業医大については調査対象から外した。